第４回　松ヶ岡プロジェクト推進委員会（議事録）

日時：平成 28 年２月 20 日（土）
13：30～16：30 まで
会場：松ヶ岡（旧山﨑家住宅）

１　開　会

２　挨拶

委員長

参与は途中からの参加であり、十分な説明がしきれていない。保存活用や考え方、取り組みについて説明する機会にさせていただきたい。改めてプロジェクトの出発点を再確認したい。率直かつ活発なご意見をいただきたい

３　報告事項

松ヶ岡の市有形文化財(建造物)指定について、「山﨑」の字への統一について事務局から報告、説明を行った。

松ヶ岡をどの様に活用するか、見学の対象とする空間、使用する空間、活用する空間を考える。

４　議事

(1)建造物調査報告書について

委員長より、山﨑家の歴史、山﨑千三郎、覚次郎の功績、掛川銀行の果たした役割や価値、松ヶ岡の歴史的な価値などの解説がなされた。

(2)松ヶ岡建造物整備委員会について

第２回整備委員会･･･整備の方向性、どこまで修復復元をするか議論した。

第３回整備委員会･･･土間部分の天井、床の除去を、技術、経験のある人たちの手で行う。

・今後の作業として、どの部分をどの様に活用していくのか、十分検討した上で案を出す。

・主屋は見学の対象とすることで一致している。市民へのアピール度、将来の活用等を中心に考え、優先順位を検討していく。将来的に修正もあり得るが、部屋ごとの活用計画を検討する。

(3)今後の活動について

・掛川銀行の必要性を感じた。NHK の「あさが来た」は同じ時代の銀行の話。掛川銀行のPR には良い時期。

・募金活動には事業計画書や収支計画等が必要。もう少し現実味、具体性がないと集まりにくい。利活用を推進し多くの方が利用すれば、募金活動も広がりお金が集まる。パンフレットなどで周知することも大事。寄付依頼のチラシも本来はプロジェクト推進委員会で考えるべき。

・山﨑家の基盤、基礎を築いた人物である、4 代目晨園に光を当てる。

・修復プロジェクトを商品とし好奇心をくすぐるような仕組みを考えられないか。育てていく視点が必要。観光の機会をたくさん作ることができる。

・日本の経済の学び舎、歴史などをうまく PR し、中学生の見学なども実施する。DVD を作成しインターネットに動画で発信する。自転車ツーリズムのルートに組み込むなど、他のイベントとも連携する。

・優秀な人材が集まるようにし、多くの意見をもらうことが重要である。

・このプロジェクトは国の補助金を受ける予定である。文化財修理は厳密に金額が出しにくいが、そのことも手際良く説明しておいた方が良い。

・多くの箇所に傷みが生じ、今修復すれば大きく費用がかからずに済むこともある。手を付けて良い場所、駄目な場所を文化財保護審議会と連携し、指導いただく中ではっきりさせる。
・募金のチラシは、今後のPRや次回の議論の材料として欲しい。募金の話題に限って話をする必要がある。

5　閉会